

深慨隱士著
子虛陳人校

爽夏霰語

作邪三筆
樊瑞附刻

衛道書至藏

題詞

忍看九州妖
毒教播在人
心憤慨然生
以攘邪法
灑心血健筆
下刊三紙
言身
先夏子

題象



忍看九州妖寇橫
人面獸心健
義年下
行
張
玉憤慨然生
頭攘邪法
灑
心
血
健
義
年
下
行
張
三
子
先
漢
子

卷之四
題辭

又

錢業下羅橫打眩迷意新
了教名偉齋美非高揚
素言鏡所名之倘燃牛
法屏
子虛陳人

序

深慨隱士著寒更霰語子虛陳人技兩
刻之曩者隱士撰斥邪滂業余敘多傳
之今於茲刻之不能減只乃序曰邪教之
徒稱其所崇高胡神為獨一其非之極
皇國及支竺神聖聖曰假神何其善忘
憚之一至此哉世人或謂夷教特為釋氏
之患可學神傳者未必是也深憂所

是河言也。渠與釋教相仇視，固亡論已。至其侮聖賢、亂綱常，則儒家亦不得示折其衝也。鍾振之斷案，可謂確矣。故有志之士，若不盡力闢邪說，則皇國神聖之道，行將萎穢矣。不浩歎歎，世人又謂方今耶穌教與古天主教異，撰不可目以邪，用之亦無害於世道人心，吁亦何不思之甚也。夫人之忽視而不察其邪，是耶穌之所以

為邪教也。昔唐德宗不覺靈杞姦邪，鄴度乃以為此杞之所以為姦邪也，而杞之姦邪，則不覺靈杞其若，擅威福而已矣。夷教則不然，包藏禍心，甘言誘我，其極奪不厭食，若不察其為邪，駸乎陷渠術中，則吾恐它日喪我，不心建中之比矣。隱士之勢，闢邪教者為國家闢之也，為蒼生一解之也，豈唯為道闢之已哉。

編之出、吾問 神儒佛者、讀此而覺
彼狡、彌同心戮力、振起 神州英靈之氣、
使妖氛不復浸淫民心、則正道並興於流
季、永措 皇國乎萬金、安矣、此余之所
深望於世人也、

丁卯仲冬日

憂國野史撰

寒霞語序

軒端ヲ過ル夜半ノ霞ニ驚サレテ、老ノ寐覺ノセン
方ナキニ、埋火ノ炭ヲ添燈ノ花ヲ剔テ、アタリナル
文架ヲ探レハ、去年ノ秋物セシ、斥邪漫筆ハタ往シ
春カキツキシニ筆ヲ得タリ、其比ハ、閱スルトコロ
破邪闢邪ノ諸書、小學正宗、瀛環志畧、六合叢談、原本
等ニ過ス、サレハ、洋教西教ノケヂメハ、知トイヘト
モ、其教ノ分ル、ム子ヲ詳ニセス、以頃夷輩ノ聖書
ト称ル兩約書、ハタ咸豐ノ比、采夷打撻浪カ著セル
天道湖原等ヲ讀コトヲ得其餘見聞スルコトアリ

天、今ノ天教、古ノ天教ニ畧異ナルム子ヲ意得ヌ、然レトモ、至竟同源異流ト云ヘク、歸スルトコロ天主ノ二字ニ過ス、綱常ヲ壞リ、心術ヲ害シ、人ノ國ノ亂スコトハ、古今一般ナリ、サレハ三筆ノ腹稿已ニ成レ、ト、尚彼書共ヲ涉獵シテコソト思ヘハ、座右ニ空冊子ヲ置テ、見聞ニ隨テ、且録シ、且評シテ、卷ヲナシヌ、匆卒ノシワサニテ、固ヨリタシカナル著述ニアラ子ハ、或ハ聞タカヘ思ヒガメタルモアルヘシ、サレハ筆ヲ起シタル初二就テ、寒更霰語ト名ク、アハレ風一ゼノ霰ノ一トホリ降過テ、跡ハカモナキ

スサヒナカラマ、夷輩ノ甘言ヲ信テ、今ノ天教ハ邪法ニアラスナトイフ、迷ノ夢ノオトロクモアラシヤト、嗚呼ガマシクモ冀ニナン、

慶應元年乙丑抄冬

深慨隱士識

寒更霰語卷上

深慨隱士 著

子虛陳人 校

舊約書三十九冊アリ、天教ノ徒ノ尊崇シテ、聖經ト
 スルモノニシテ、亦約書ト云、聖經ト名ルコトハ、猶
 太國古ノ先知、上帝耶和華ノ命ヲ受テ記ス、皆聖令
 ヲ感シテ記スルヲ以テ、コレヲ聖經ト云、又昔上帝
 耶和華亞當ト約シ、又挪亞ト約シ、又亞伯拉罕ト約
 シ、又摩西ト約ス等、上帝耶和華顯現シテ、古ノ先知
 ト約スルノ事ヲ、皆此書ニ載テ、以テ萬人ニ信セシ

ハ故ニコレヲ約書トイフ、新約書ハ總シテ二十七冊アリ、コレハ耶穌未生已前先知ノ預言ニ應シテ出現シ、天國ノ要道ヲ明ニシテ、世人ヲ救フ大カラ成ス、其一代ノ言行ヲ集メタル、門人ノ所記ヲ新約書ト名久其舊約書ハ、天地開闢ノ初ヨリ、耶穌降世四百年許已前マテノ事ヲ記ス、先知ノ勝レタル二十餘人出シ、是皆天主上帝ノ命ヲウケ、聖令ヲ感シテ録スル者トイヘリ、舊約書ハ、猶太國語ヲ以テ記ス、新約書ハ、羅馬語ニテ記セリ、而シテ新約全書ハ、耶穌降世一千八百五十五年、清咸豐五年乙卯、江蘇皇安政二年也

松江上海墨海書館印ト識セリ、舊約全書ハ、耶穌降世一千八百五十八年、清咸豐八年戊午、江蘇松江上海墨海書館印ト識セリ、合シテ一帙トス、兩約全書是ナリ、余所覽之本如此、聞舶來多種、文有少異評云、約ハ盟約ノ義ナルヘシ、支那開國ノ君功臣ヲ封シテ、山河礪帶ノ盟アリ、間更變スルコトアレトモ、ソレハ人間ノ上ノ三、天地萬物ノ主宰トシテ、全智全能ト稱スル天主、開國ノ初亞當アダムニ盟フトコロ、園ノ果實意ニ任セテ食フヘシ、惟善惡ヲ別ツノ樹果ハ食フヘカラス、若食ハ、必

死ヒント、然ルニ二人魔鬼ニ誘レテ、コレヲ食フ
 ニ不死^キ而シテ其不^ル奉^セ命^ヲヲ怒テ、二人所生^スノ人類
 ノ原罪トスルハ何ソヤ、加之亞當九世ノ孫^ハ亞
 ノ時、世人作^レ惡^ヲ暴虐徧^ク行^フヲ以テ、我所造^ル不善^ト後
 悔シテ、億兆ノ人畜ヲ翦滅シ、僅ニ挪亞妻子暨^テ媳
 八人ヲ存ス、而シテ嗣^ト後^チマタ生物ヲ滅セシト約
 ス、如此シバ、更變スルハ何ソヤ、預言トハ、印度
 ニ懸記トイス、唐土ニ讖言トイス、皇國ニ未來
 記トイス、^丁韃^浪云、舊約書前定言、至^テ新約書作^ル較
 之^ハ符合^ス不爽^ス、^{天道}原^上、^湖是預言トイフモ、耶穌降世已

來、夷輩各倡言スル所ナレハ、符合^ス不爽^スハ勿論ナ
 リ、然ルニ挪亞ノ三子、閃^ハ含^ハ雅弗^ハ、三方ニ分レテ、閃
 ハ亞細亞ノ祖、含ハ阿非利加ノ祖、雅弗ハ歐羅巴
 ノ祖ナリ、此中雅弗ノ子孫盛ニシテ、閃ノ領地ヲ
 取り、含ノ子孫、其服役トナルトノ預言了リ、是三
 大洲ノ祖ヲイフノミ、亞米利加ノ祖何人ナルコ
 トヲ知ラス、我思フニ、亞細亞ニ近ケレハ、仍閃ノ
 後トスルナラン、然ルニ亞米利加ノ地土人自ラ
 墾闢スルコトヲセス、歐羅巴人來テ墾闢ス、其比
 造レル預言ナルヘシ、而シテ九十年前、西洋人盡

ク闢キ畢レハ、米夷漸ク其管轄ヲ不受、北米ノ華
滅頰、兵ヲ起シテ英人ト鬪戦シ、終ニ獨立不羈ノ
國トナリ、方今追々西洋人ヲ逐ヒ、文政天保ノ北
ニ至テ、面々獨立國トナレリ、サラハ雅弗力、閃ノ
地ヲ取ルトイフ預言、今日ニ至テハ盡辭トナル
カヲ竭シテ墾闢スルモ、至竟兄ノ為ニ服役トナ
ルノミ、如此盟フ所モ未通ラス、識言モ一時ノ事
ニテ改變ス、豈萬人ニ信セシムルニ足ンヤ、

天道湖原三卷、二十合衆國丁躉良撰、清人序、之其推
辨ヲ極ム、末ニ署シテ云、久時在大清咸豐八年、皇
國安

政五年花朝月之中、漸發州教弟、候補教諭唐傳中拜
戊午撰、此書モツハラ耶穌教ヲ主張シ、天主ノ信スヘキ
コトヲ辨セリ、兩約書及此書ヲ研究セハ、方今邪教
ノ建立、宛モ掌ヲ指スカ如クナラン、

評云、夷輩逾支那ノ書ヲ讀テ其理ニ通シ、其所不
言ヲ唱テ、聖賢ノ說ヲ加減シ、佛法ノ糟粕ヲ掠メ
テ、天堂地獄ノ說ヲ主張シ、誇テ儒道ノ所不及ヲ
助クトイヘリ、五行ノ中、木ハ餘ノ四ニ比スヘキ
ニ非ストシテ、代ルニ風ヲ以テシ、五倫ノ上ニ神
人倫ヲ加ヘテ、六倫トスルカ如キ、恣ニ儒教ヲ加

減スルコト知又ヘシ今此書ヲ通覽スルニ上卷
第一章以星宿為證ヨリ第六章以禽獸昆蟲為證
ニ至ル天主萬物ノ主宰タルコトヲ信セシメン
力為ナリ故ニ第七章論萬物皆彰主宰之德ト標
セリ中卷第一章論天垂教為人所不可少ト標シ
第二章以預言為證ヨリ第六章以道之妙為證ニ
至ル第七章釋疑端以明真道ト標シ終ニ明徐光
啓奏留天主教疏唐代景教流行碑文ヲ引ク下卷
第一章論聖書原文譯文ヨリ第八章論信者當恒
心祈禱ノ下ニ其祈禱式四則ヲ引キ第九章論信

者當守聖禮幾十章論三位一體三位トハ天父神
子聖靈ナリコレヲ天教ノ秘奧トス以上二十四
章其詳ナルコトハ就テ見ルヘシ丁氏ノ文雅健
流暢筆端鼓舞儼マレナリ明末利瑪竇ノ交友論
王肯堂ノ刪潤ニ由ルニ例スレハ唐氏ノ斧正ヲ
經ルナルヘシト雖華夷ノ書傳ニ熟スルニ非ン
ハ如此ナルニ至ラシ而シテ巧ニ明末天教ノ短
處ヲ避ケ外人ノ忌諱ニ觸レサルヤウニ筆シ古
ノ天教ニ異ニシテ耶穌ノ正義ヲ叙ルヨシ唱フ
ルト雖其中夸大ノ語アリ誑惑ノ語アリ妄誕無

稽ノ語アリ、其大旨、先知ノ預言ヲ叙ヘ、耶穌ノ救世ヲ贊シ、至竟天主ノ信不信ヲ以テ、後生ノ升沈ヲ言フニ過キス、反覆シテ味ヘハ、今古ノ天教互ニ邪正ヲ争フモ、共ニ五十歩百歩ノ差ニシテ、倫理ヲ滅シ、心術ヲ害シ、國家ヲ紛亂スルノ域ヲ出テス、後學空ク諒察スヘシ、

舊約全書ノ首ニ、創世記、出埃及記、利未記、民數紀、略申命記ヲ列ス、此五部摩西上帝ノ命ヲ受ケ、一々其指麾ヲ得テ所記トイヘリ、摩西ハ、殿沃丁ノ世ニ當ル、今ヨリ三千五百餘年前ノ人ナリトス、其創世記ハ、上帝太初ノ時、創テ天地萬物

ヲ造ルコトヲ記ス、初天地ヲ造ルニ、地虛曠晦冥ナリ、上帝ノ神水面ニ煦育ス、上帝曰、宜ク光アルヘシト、即光アリ、上帝光ヲ視テ善シシ、遂ニ光暗ヲ判シ、光ヲ謂テ晝トシ、暗ヲ謂テ夜トス、夕アリ朝アリ、是乃^キ首日ナリ、上帝曰、宜ク穹蒼アルヘシ、上下ノ水ヲシテ相隔ラシメ、遂ニ穹蒼ヲ作ス、コレヲ天トス、夕アリ朝アリ、是乃^キ二日ナリ、如此三日ニ水陸ヲ分チ、陸地ニ艸蔬菓樹ヲ生ス、四日ニ穹蒼ニハ輝光衆ク著レ、晝夜ヲ分チ、四時ヲ定メ、年ヲ紀シ、日月ヲ造テ晝夜ヲ理メ、星辰ヲ造テ穹蒼ニ置ク、五日ニ水中ニ

滋生スヘキ鱗蟲ヲ具ヘ、鳥ハ地ヨリ飛テ天ニ戻ル
六日ニ地ニ生スヘキ六畜昆蟲走獸各其類ニ從フ
而シテ人ヲ造テ己ニ肖セシム、又男ヲ造リ、女ヲ造
リ、且祝シテ生育衆多、地ニ昌熾ナラン、コレヲ治理
シ、以テ海魚飛鳥及地ノ昆蟲ヲ紛轉セシメント、上
帝曰、汝ニ所食ノ物結實ノ菜蔬懷稊ノ樹菓ヲ予ヘ
シ、亦艸菜ヲ以テ走獸飛鳥昆蟲ニ予フ、天地萬物既
ニ成テ、第七日ニ、上帝工竣テ安息ス、故ニ七日ヲ以
テ安息日ト名ケ、聖日トス、是創世記第一章ノ大都
也、

評云、儒家ノ太古神道ノ開闢佛氏ノ成劫世界ノ
初ヲ説ク簡略ニシテ迫切ナラス、創世記ノ所談
天主六日ニシテ、天地萬物ヲ造作ス而モ其日々
ノ造ルトコロ、井々トシテ次第アル、委細ニ過テ
信シ難シ、其首日、天地未分ノ時、地ノミ虚曠晦冥
トイヘル思カタシ、若天ハ上ニアリ、地ハ下ニア
リトイハハ、何ソ二日ニ上下ノ水ヲ相隔ラシメ、
遂ニ穹蒼ヲ作ストイフヤ、又天主宜ク光アルヘ
シトイハハ即光アリ、光暗ヲ以テ晝夜ヲ判スト
イフ、晝夜ノ判ハ四日ニアリ、若吾天教ニハ日月

不足貴畢竟燈籠ノ如クナレハ初ノ光ヲ原トス
 トイハ、何ソ上帝造ニ耿光大以理晝小以理夜
 トイフヤサレト光暗ヲ以テ晝夜ヲ分ツコトハ
 猶言フヘシ、四日ニ四時ヲ分千年ヲ紀ストイヘ
 ル尤思ヒ難シ、螻蛄不知春秋トイフモ、四時ヲ知
 ル者ノ言ノミ、一日ヲ一生トスル小蟲ノ春秋ヲ
 知ルヘキヤウナシ、今天主イカニ全智全能トイ
 フトモ、一日ニシテ四時ヲ分千年ヲ紀スルコト
 イフカシ、佛氏成劫ノ初ヲ説クハ如此ナラス長
 阿含經曰、天地更始了無所有亦無日月地湧甘泉

味如酥蜜時光音諸天或有福盡來生或樂觀新地
 性多輕躁以指嘗之如此三轉得其甘味食之不已
 漸生廉肥失天妙色神足光明冥然大暗後大黑風
 吹彼海水漂出日月置須弥邊安日道中遠須弥山
 照四天下時諸人輩見出則歡見入則懼自茲已後
 晝夜晦朔春秋歲數終而復始取意如此漸ヲ以テ
 成ス然ルニ天主一日ニシテ成ス豈非無其理哉
 又評朝夕晝夜春秋年歲ハ日月ヲ以テ定量トス
 謂ク日出ヲ朝トシ日没ヲ夕トス明ヲ晝トシ暗
 ヲ夜トス春秋年月ハ其積累シテ旋轉スルモノ

ナリ然ルニ首日、上帝命シテ即光アリ、光暗ヲ判
シテ晝夜トス、其光如何カ照シ、如何カ滅スルヤ、
遽ニ朝アリタアリトス、理會シカタシ、况ヤ四日
ニ至テ、晝夜ヲ分チ四時ヲ定ム、等トイフニ對シ
テハ、首日ノ朝夕晝夜、尚明了ナラシ、日月ナクシ
テ、何ヲ以テカ朝夕ヲ知ルヘキ、曆原ナクシテ年
數ヲ紀スヘカラス、唐土ノ曆原ハ、黃帝ニ始リテ
辛卯ヲ用ユ、回教ニハ、馬哈默ノ出山ヲ始トシ、天
教ニハ、耶穌ノ降世ヲ始トストイハスマ、抑天主
ハ何ノ時ヲ以テ、曆原トスルヤ呵々、

天地始造ノ日、野ニ艸ヲ生セス、蔬ヲ植ニス、上帝イ
マタ霖雨ヲ下サス、耕作尚人ナシ、上帝土ヲ搏子テ
人トシ、氣ヲ嚙テ鼻ニ入レ、血氣ノ人ヲ成ス、埃田ノ
東ニ圃アリ、所造ノ人ヲ其間ニ置ク、圃中ニ生命ノ
樹アリ、善惡ヲ別ツノ樹アリ、河アリ、流テ圃ニ入ル、
灌溉ヲ資クヘシ、上帝其人ヲシテ栽植防守セシメ、
命シテ曰、圃ノ菓實意ニ任セテ食スヘシ、惟善惡ヲ
別ツノ樹ハ不可食、食ハ、必死スト、又上帝土ヲ搏
子テ走獸飛鳥トシ、率テ亞當ノ前ニ至リ、其辨スル
ニ何ノ名ヲ以テスルヲ視テ、百物ノ名乃定ル、而シ

テ亞當ヲ相助ケ為理ノ者ナシ、上帝乃亞當ヲシテ
 酣睡セシメ、其一脅骨ヲ取り、其肉ヲ彌縫シ、所取ノ
 脇骨ヲ以テ女トシ、率テ亞當ノ前ニ至ル、亞當曰、是
 我百骸中ノ一骨全體中ノ一肉ナリ、彼男ニ由テ生
 ス、必稱シテ女トセント、亞當ト妻ト、並ニ裸ニシテ
 愧ルコトナシ、第二
章意

評云、首章ニ所叙其第三日、上帝曰、地宜生艸、蔬結
 實、樹生菓、菓懷核、各從其類、上帝視之為善、ト載タ
 リ、然ルニ第二章ニ所叙始造之日、野不生艸、不植
 蔬、耶和華上帝未降霖雨、トイフハ、如何ナル事ノ

第五日ニ、鱗蟲畢具、羽族各從其類、第六日ニ、上帝
 曰、地宜生物、六畜走獸昆蟲、各從其類、有如此也、ト
 イス、又上帝曰、宜造人、其像象我儕等、トイフ、終ニ
 上帝視所造者、盡善、トイハハ、禽獸及人已ニ成レ
 リ、故ニ第二章ノ首ニ、天地萬物既成、七日上帝工
 竣、乃憇息、トイハスヤ、而シテ耕作尚無人トシテ
 土ヲ搏、子氣ヲ嗑テ人ヲ造ル、豈怪シカラスヤ、タ
 ヲ、人ノミナラス、耶和華上帝搏土、為走獸飛鳥、率
 之至亞當前、視其稱、以何名、トイヘリ、前後對校ス
 ルニ、首章ハ上帝ノ命ノマ、萬物頓ニ成リ、次章

ハ、上帝ノエヲ經テ萬物漸ク成ル、何ソ前後矛盾ノ其シキヤ、首章是ナラハ次章ハ非ナラシ、次章實ナラハ首章ハ虚ナルヘシ、創世記ハ、天教ノ根據、摩西一々上帝ノ指麾ヲ得テ述ルニ非スヤ、而シテ此參差アルハ、上帝ノ告タカヘル乎、摩西ノ聞ヒカメタル乎、呵々、救云、創世記ノ意、首章ハ總シテ、天主六日ノ間ニ、天地萬物ヲ造ルコトヲ明シ、次章ハ、別シテ人倫ノ始祖、亞當夏娃ヲ造ルコトヲ明ス、二章參差ナシ、何ソ前後矛盾ヲモテ責ルコトヲセシ、如何、斥云、此救通暢セス、イカニモ

第二章ニ、耶和華上帝既造天地、其略如左ト標シテ、次ニ始造之日野不生、艸ト列ス、既ハ既往ノ義ニシテ、其所成ノ槩略ヲ左ニ叙ル趣ナレハ、前後參差ナシトモイフヘケレトモ、記文ノ所叙前後參差一ナラス、故ニ乘難シテ云々セリ、且所救ノ如ク、總別相對シテ、更ニ章ヲナサハ、別シテ天地萬物ヲ詳ニスヘシ、而ルニ耶和華既造天地、其略如左ト標シナカラ、天地萬物ノ説アルコトナク、一章只人倫ノ始祖ヲ造ルコトヲ詳ニスルノミ、豈標説不齊ニ非スヤ、其參差不一トイフハ、第三

日ニ地遂生艸蔬結實各從其類上帝視之為善ト
 セリ今始造之日野不生艸不植蔬ト云フ忽參差
 スルニ非スヤ一是然ルニ耕作尚無人トシテ上帝
 土ヲ搏子テ人トストイヘリ上帝宜造人トイフ
 ハ第六日ナリ此時イマタ野不生艸トスル乎亦
 是參差ニアラスヤ二是又首章ノ所敘禽獸ハ人ニ
 先チテ成レリ而今上帝為走獸飛鳥率之至亞當
 前トイフ亦前後參差スルニ非スヤ三是然ルニ萬
 物ヲ造就スルコト漸ニシテ迫切ナラスハ總中
 別アリトモイフヘケレト六日ノ間并々トシテ

次第不亂トミエタリ而シテ此參差矛盾ヲ致ス
 請フ二章ノ本文ニ照映シ平心ニ余力難勢ヲ味
 ハ、的ニ此救通暢セサルコトヲ知ラン其前後
 對校スルニ首章ハ上帝ノ命ノマハ萬物頓ニ成
 リ次章ハ上帝ノエラ經テ萬物漸ク成ルカ如キ
 矛盾參差固ヨリ喋々ヲ不待ヘシ

上帝所造ノ生物ノ中蛇ヨリ狡ナルナシ婦ニ謂テ
 曰囿ニ百樹アリ上帝汝ニ勿食ト語タルヤ婦曰囿
 樹實ヲ結フ我俱ニ食スヘシ中ニ一樹アリ上帝命
 シテ勿食ラキム食セハ必死セントイヘリト蛇曰汝必シ

モ死スヘカラス、コレヲ食セハ、爾カ目必明ニシテ
能善惡ヲ辨シ、上帝ニ彷彿タラント、婦菓ヲ取テ食
之、亦以テ夫ニ與ヘ、夫モ亦食ス、二人口ニ適ヒ、智ヲ
益シ、目明ニシテ、自ラ裸體ヲ知り、遂ニ蕉葉ヲ編テ
衣トス、日昃キ涼風至リ、上帝囿ニ遊フ、二人其聲ヲ
聞キ、身ヲ樹間ニ匿シテ避之、上帝亞當ヲ召ス、曰、我
爾ノ聲ヲ聞クト雖我裸ナルヲ以テ畏テ自ラ匿ル
ト、上帝曰、孰カ爾ヲ裸ナリト言フヤ、我勿食ト命セ
シ菓、爾食セリヤ、亞當曰、婦菓ヲ與フ、我コレヲ食セ
リ、上帝婦ニ謂ス、爾何ノ為ソヤ、婦曰、蛇我ヲ誘フニ

食セシム、於此上帝蛇ヲ罰シ、二人ヲ逐フテ、埃田ノ
外ニ出シメ、其罪苗裔ニ及ホス、第三章

評云、亞當夏娃ノ違命、明末天教者ノ説ニハ、魔鬼
輅齊弗爾ノ所誘トセリ、一説ニハ、一魔鬼アリ、撒
但トイフ、原上帝ノ天使ナリ、然ルニ罪ヲ得テ、天
國ヲ擯出セラレタルヲ以テ、恨ヲ天主ニ含ミ、於
此蛇ノ身ニ託シテ、二子ヲ惑ハストイヘリ、輅齊
弗爾ハ、天主所生ノ三十六神ノ首ニシテ、佛氏ノ
祖ナリトイフハ、舊天教者ノ説ナリ、方今、夷輩今
ノ天教ハ、昔ノ天教ニ異ナリ、彼ハ邪ナリ、此ハ正

ナリト云オホキ彼ニ異ンシテ説ヲ立ツ、然ルニ創世
記ニ、狡蛇ノ所誘トイヘル、上古禽獸ノ人語セシ
コト、釋氏ノ經論ニ數多ミエテ、事古ヌレハ、蛇ノ
言コトフコトアルマシキニアラ子ト、故ニ二子ヲ誑
惑シタルコト意旨了シカタキユヘ、上帝ニ恨アル魔
鬼ノ託セリトイフ説ヲ立ツルナルヘシ、此事今
ノ天教者專唱フルコト、ミエテ、天道溯原下三第
章ニハ、彼禁果為順天之師、聽信魔鬼食之、又魔鬼
欲惑之、必變形自食禁果トイヘリ、創世記ニハ魔
鬼ノ説ナシ、而シテ後ハ、此蛇足ヲ畫久、上帝ノ指

麾ヲ以テ記シタル摩西ノ書ナレハ、一字一句不
可加減ナルヘキニ、意ニ任セテ筆ヲ加フルハ何
ソヤ、
又評ス方今耶穌教カメテ舊天教ノ外難ヲ受クル
處ヲ避ケテ説ヲナス、故ニ三魂ノ説ヲイハス、タ
、靈魂ノミヲイフ、有始有終有始無終ノ説モミ
エス、タ、天主ノミ、無始無終ト稱ス、又タ、天父
ト稱スルノミニテ、大父小父ヲ分チ、小父ニ叛キ
テモ大父ニ從ヘヨトノ説ナシ、孔子ヲ魔鬼ニ攝
スル沙汰ナク、四種地獄ノ説ヲ聞カスザレハ支

那ノ聖賢及人間ノ祖先、天主ヲ奉セサルノ善人、
鍊清地獄ニ入ル等ノ説ナシ、辨天道溯原ニハ、終
ニ天堂地獄ノ説サヘナク、耶穌蘇生ヨリ説ヲ立
テ、人死スト雖靈魂永ク存シテ滅セストイヒ、
或ハ天道大公、善ニ福シ、淫ニ禍スル、自ラ至理ア
リトイフニ至ル、各儒教ニ朋附シ、牽テ己カ道ニ
入ラシメントス、所歸ハ、天父神子聖靈三位一體
ヲ以テ秘奧トスルナリ、但亞當夏娃ノ違命、耶穌
ノ十字刑架、其説古今換ルコトナシ、後人カヲ窮
メテ其根本ヲ攻ムヘシ、

又評小學正宗序曰、慨自始祖犯罪、人性澆漓、庶民
之禍患潛生、億兆之愆尤叢集、正教沈淪、真道汨沒、
無怪世道日下矣、是古今天教者家常ノ茶飯ニシ
テ、毎ニ口ニスル所ナリ、天主已ニ萬世人類ノ祖
ヲ誕ス、何ソ其至真至全、ヨク其始祖タルヘキ器
ヲ擇ハサルヤ、無幾シテ其命ニ違ス、預メコレヲ
察セサルハ、不智ナリ、犯罪ノ後コレヲ黜ケスシ
テ、萬世ノ禍原ヲ遺スハ、不能ナリ、羅川如純評シ
テ曰、天主全智全能ナラハ、必萬世ノ流弊ヲ洞視
セシ、爾ラハ何ソ其違命ノ者ヲ去リ、并ニ後來ヲ

護シ人ミヲシテ始終ヲ善セシメ、為惡ノ源ヲ絶
 サル、而シテ其惡念ヲ恣ニシ、漫誕今ニ至リテ、汙
 染不了ヲ致ス、是何ソ自ラ惡ノ本ヲ遺スヤ、若天
 主、彼時即コレヲ滅セント欲スレトモ、人種ヲ傳
 フルコトナキヲ恐ルトイハ、何ソ再ヒ一個ノ
 好人ヲ生シテ、コレヲ以テ傳ヘサルヤ、天學初又
 正宗ニ所叙、正教沈淪、真道汨没トイヘル、難思、天
 主人類ノ始祖ヲ誕シテ、所謂正教真道ノ行ハル
 、間モナク、始祖忽罪ヲ犯シテ、萬世ノ禍原ヲ生
 ストイハスヤ、病ムコトモナク、死スルコトモナ

キ筈ナルニ、二子ノ違命ニ由リ、億兆ノ愆トナリ、
 病モシ死モスルヤウニナレル其本ハ、判善惡ノ
 樹アルヨリ、其菓ヲ勿食ト禁シ、依之魔鬼ソノ隙
 ヲ窺ヒ、二子ヲ誑シテ命ニ背カシメ、萬世ノ禍原
 ヲナス、畢竟罪ノ本ハ天主ニアリ、然ルヲ却テ二
 子ヲ罪シ、稱ソノ子孫ノ原罪トスルハ何ソヤ、蓋
 新舊天教ニ亘リテ、必コノ說アルモノハ、恐クハ
 微意アラシク何トナレハ、耶穌ヲ稱シテ救世主ト
 スルモノ世人ノ罪惡ニ代リテ、躬磔罪ニ罹ルヲ
 以テナリ、而シテ其人ノ罪惡ヲ檢スルニ、渠釋氏

ノ如キ過去十ケレハ、宿罪ノ數フヘキナシ、只其
 誕生ノ始ヨリ、遇教ノ時ニ至ルマテノ罪惡ニシ
 テ、十年世ニ在ラハ十年ノ宿惡、五十年世ニ在ラ
 ハ五十年ノ宿惡ノミ、釋氏ノ無始劫來輪廻無窮
 ノ罪惡ノ如クナラス、故ニ此原罪ノ説ヲナスナ
 ラシ、サレハ先善惡ヲ判スルノ樹ヲ生シテ、其菓
 ヲ食スルコトヲ禁シ、魔鬼ノ誘ヒニ託シテ、二子
 ヲシテ禁ヲ犯サシメ、萬世ノ原罪トスルナリ、不
 爾羅川ノ所謂別ニ好人ヲ生シテ、コレニ代ラシ
 メ無罪ノ始祖ヲ立ツヘキニ、其違命ヲ責ナカス

コレヲ廢セス、此人ノ種ヲ存シテ、萬世ノ原罪ニ
 備フルナリ、若此違命ナクハ、天教ニ於テ前生ノ
 罪ノ末ムヘキナシ、サラハ十字架ノ代ルトコロ、
 甚輕カルヘシ、此説古來所不言ナリト雖思ヒヨ
 ルマ、コレヲ誌ス、後人更ニ考フヘシ、夷輩口ヲ
 開ケ、救世ノ德ヲ稱スレトモ、釋氏ノ所謂大悲
 代受苦ノ説ニ比スレハ、宛モ千鈞ト一毫トノ如
 シ、豈輕重ヲ論スヘケンヤ、且夫二子ノ盜菓ヲ以
 テ萬世其贓ヲ負ハシムルモ、人律ニ辜キ理ニ當
 ラス、譬ヘハ貪婪ノ吏アリテ、官財ヲ乾没セシニ、

官其吏ヲ責ムト雖、コレヲ黜ケス、一縣ノ民ヲシ
テ、百世其職ヲ負ハシメンカ如シ、此豈至理ナラ
ンヤ、速ニ其吏ヲ罰シ新ニ清白ノ循吏ヲ擢テ、一
縣ヲ風靡シ廉耻ヲ守ラシメンコソ公道トイフ
ヘケレ、羅川ノ所責蓋此理ナリ、豈天主ノ處置不
全ニ非スヤ、且亞當ヲ嚇シテ、此菓ヲ食セハ必死
セントイヌ魔鬼ハ却テ食ストモ不_ニ必死_ト且耳目
ヲ明ニシ、智ヲ益サントイヘリ、二子天主ニ違シ
テ、魔鬼ヲ信シコレヲ食フニ、々々、不死_ルノミナラ
ス、智ヲ益シ愧_シ生ス、是魔鬼ノ言ハ真ニシテ、天

主ノ言ハ虚ナルニ非スヤ、而シテ天主コレヲ以
テ羞トセス、却テ違命ヲ責テ、其罪ヲ萬世ニ及ホ
ス、二子罪アリト雖、豈能心服センヤ、街亭ノ敗ハ
馬謖カ將令ニ違ヘルニ由ル、孔明コレヲ誅シ、且
自貶シテ右將軍トナル、是至公ニ非スヤ、全智全
能ノ天主ニシテ、自謙スルコトヲセス、公然トシ
テ萬世ノ原罪ヲ稱ス、豈至公至義ノ處置トイフ
ヘケンヤ、故ニ余、此說ヲナス者、耶穌ノ救世輕ニ
シテ淺ナルヲ病ミ、此不根ノ說ヲナスヲラント
謂ヘリ、二子ノ違命、耶穌ノ救世、今古ノ天教同一

ニシテ、千言萬語コレニ歸セストイフコトナシ、
唯教王ノ立、巴禮ノ淫等ノ支末ヲ摘テ、古ノ天主
教ハ邪ナリ、今ノ耶穌教ハ正ナリト罵ルノミ、迷
中ノ是非ハ、是非俱ニ非ナリ、故ニ曩ニ其根本ヲ
攻ムヘシトイフナリ、

又評、亞當夏娃ヲ誑惑スルハ、魔鬼輅齊弗兒ナル
コト、舊天教者專イフ所ニシテ、コレヲ佛氏ノ祖
トシ、終ニ孔子ヲサヘ魔鬼ニ攝スルニ至ル、新天
教者ハ、天使撒但ヲ魔鬼トス、天主ニ恨ヲ含ミ、蛇
ノ身ニ託シ、二子ヲ惑ハストセリ、然ルニ創世記

二八、直ニ狡蛇ノ誘フトシテ、魔鬼ノ名ナシ、サレ
ハ輅齊弗兒撒但、共ニ後人ノ蛇足ニシテ、何ニ據
ルトイフコトヲ知ラス、創世記ニ、天地萬物ヲ造
ルコトヲ詳備セシニ、告モラセシトセン乎、舊天
教者ノ所謂三十六神、及ヒ天使撒但ノ如キ者、コ
レヲ造レルハ、六日ノ内何日ニ屬セン、原上帝ノ
天使ニシテ罪ヲ得タルハ、如何ナル所由ソ、如何
ナル時ノ造レル初モ知ルコトナク、擯罰セラレ
タル時モ知ルヘカラス、何ソ鄭人蕉鹿ノ夢ヲ語
ルニ異ナラン、一笑、

亞當婦夏娃ト室ヲ同フシテ、二子ヲ生シ、長ヲ該隱
トイヒ、次ヲ亞伯トイフ、亞伯ハ羊ヲ牧シ、該隱ハ田
ヲ耕ス、他日該隱土ノ所生ヲ携ヘテ、以テ耶和華ヲ
祭ル、亞伯首生ノ羊ト脂膏トヲ以テ耶和華ニ奉ス、
耶和華亞伯ヲ眷顧シテ其祭ヲ歆ケ、該隱ヲ不顧、其
祭ヲ不歆、該隱盛怒シテ色ヲ變ス、耶和華曰、汝怒テ
色ヲ變スルハ何故ノ、苟クモ爾善ヲ行セハ豈興起
セサラン、苟クモ不善ヲ行ハ、孽門ニ伏シテ爾ニ
繫戀セン、汝爲之督セヨ、其後該隱弟ト晤談シ、田間
ニ至テ殺之、耶和華該隱ニ問フ、汝カ弟何ニカ在ル、

曰、不知、我豈弟ヲ守ル者ナランヤ、曰、爾果シテ何ヲ
カナス、爾カ弟ノ血有聲、地ヨリ我ヲ籲フ、汝既ニ弟
ヲ殺ス、地口ヲ啓キテ其血ヲ受ケ、故爾誣ヘラレ、必
斯土ヲ離レ、其後爾田ヲ耕スト雖、地カヲ致サス、流
離定ルコトナカラシ、該隱耶和華ニ謂テ曰、我重刑
ニ罹ル、實ニ不堪トコロナリ、爾今我ヲ逐フ、必斯土
ヲ離レ、マタ爾ノ面ヲ見ス、流離定ナクハ、恐クハ我
ニ遇フ者我ヲ殺サン、耶和華曰、凡殺該隱者ハ、其ヲ
シテ受罰コト必七倍ナラシメン、於是耶和華加
印誌、遇者コレヲ擊ツコトヲ免ル、該隱遂ニ耶和華

二離レテ、埃田ノ東、擲得ノ地ニ往テ居ス、章四

評云、始祖人種ヲ生スルノ始、既ニ兄アリ、弟ヲ殺ス、而シテ其原ハ、天主ニ喜怒哀愛憎アリテ、中和ナラサルニ由ル、舊天教者ノ所謂、輅齊弗兒已ニ等シカラントスルヲ怒リ、貶シテ地獄ニ處シ、玉帝已ニ諂フヲ以テ、不次ニ拔擢ストイヘルモ、實況ナルヘシ、今ニ子所奉ノ品ニ於テ、一ハ眷顧シテコレヲ歆ク、一ハ不顧シテ其祭ヲ不歆、由之詭隱ノ怒ヲ激シ、終ニ弟ヲ殺ス、世上ノ慈父孝子、尚如此ノ敗事ナシ、然ルニ人種ノ最タル、逐レテ故土

ニ安ンセス、流罪定ナシ、而シテ其本罪ハ天主ニ在ルノミ、呵々、

中庸曰、喜怒哀樂之未發、謂之中、發而皆中、節謂之和、中也者、天下之大本也、和也者、天下之達道也、致中和、天地位焉、萬物育焉、夷葦耶和華上帝ヲ稱シテ、至正至大全、智全能トス、是天下ノ大本ニ非スヤ、而シテ喜怒哀愛憎ノ甚シキ、殆解スヘカラス、詭隱亞伯二子ニ於テ愛憎アルハ、其所供ヲ喜フト不喜トニ由ル、豈發而皆中節トイハシヤ、延テ後ニ至テ、所羅門闢子ノ不遵命ヲ怒テ、其子ノ國祚ヲ奪ヒ、或ハ我愛雅

各不愛以掃ト云七、或ハ震怒斯民恒久不忘ト云ヒ、
 或ハ爾欲獻酬恩之祭冀我悅納ト云フ、豈喜怒愛憎
 尤甚シキニ非スヤ、然シテ新天教者ノ曰、上帝者主
 宰乎天地之化育、網維乎六合之群生、正宗又曰、以全
 能全知之體發至公至義之用、同上以テ喜怒尤甚シク
 シテ中和ヲ得サルノ天主ヲ贊ス、豈羊頭ヲ懸テ、狗
 肉ヲ售ルニ非スヤ、

按舊約列王紀略上章十一云、以色列族之上帝耶和
 華、見所羅門之中心不從己命、則怒、蓋耶和華曾二
 次顯現於所羅門、命其不可從、佗上帝乃所羅門不

遵其命、故復諭之曰、因爾行是不守我約、及我所諭
 之禮儀、我必奪爾國祚、以予爾僕、緣爾父大闢之故、
 爾尚生存、我不行是、惟奪爾子之國祚、亦不奪其全
 土、乃因我僕大闢、亦因我所選之耶路撒冷、故必遺
 一支派、以予爾子、

舊約馬拉基書章第一云、耶和華曰、以掃為雅各之兄、
 我愛雅各、不愛以掃、使其山荒蕪、為野犬藪穴、
 又云、耶和華震怒斯民、恒久不忘、

舊約利未記章十九云、我耶和華、乃爾之上帝、爾欲獻
 酬恩之祭、冀我悅納、

新約約翰傳福音書^三云、天父愛子、以萬物予之、

信^ス子者、永生、不信^ス子者、不生、上帝怒恒在其上矣、

新天教者贊、天主云、上帝者主宰乎天地之化育、綱維

乎六合之群生、無聲無臭、無形無像、自有而自在、無始

而無終、赫々明々、無所不在、全色萬有、無所不能、精通

廣大、無所知、福德榮光、無善不備、小學正宗

評云、無聲無臭ハ、儒典ヲ剽シ、無始無終ハ、佛教ヲ

竊ム、佛教ノ說佛ニ三身アリ、法身ハ、無色無形ニ

シテ、無始無終ナリ、報身ハ、顯形示名ニシテ、有始

無終ナリ、化身ハ、隨類應同ニシテ、有始有終ナリ、

夷輩所談ノ上帝、無形無像トイフトキハ、佛教ニ

所謂法身ノ位ナリ、然ルニ創世記等ニ舉タル耶

和華ノ言行ヲ以テミレハ、全ク有色有形ニシテ、

聲臭アリトミユ、土ヲ搏テ人トシ、氣ヲ噓テ臭ニ

入ル、形ナクシテ何ソ此作用アラシ、亞當夏娃ヲ

召スニテ、聲アルコト知ルヘシ、既ニ形アリ、豈無

所不在トイフコトヲ得ンヤ、且喜怒哀憎アリ、尤

悔ノ語アリ、凡耶和華ノ言行ヲ考フルニ、夕、聖

人ニ不及ノミニ非ス、後代賢哲ト稱セラル、人

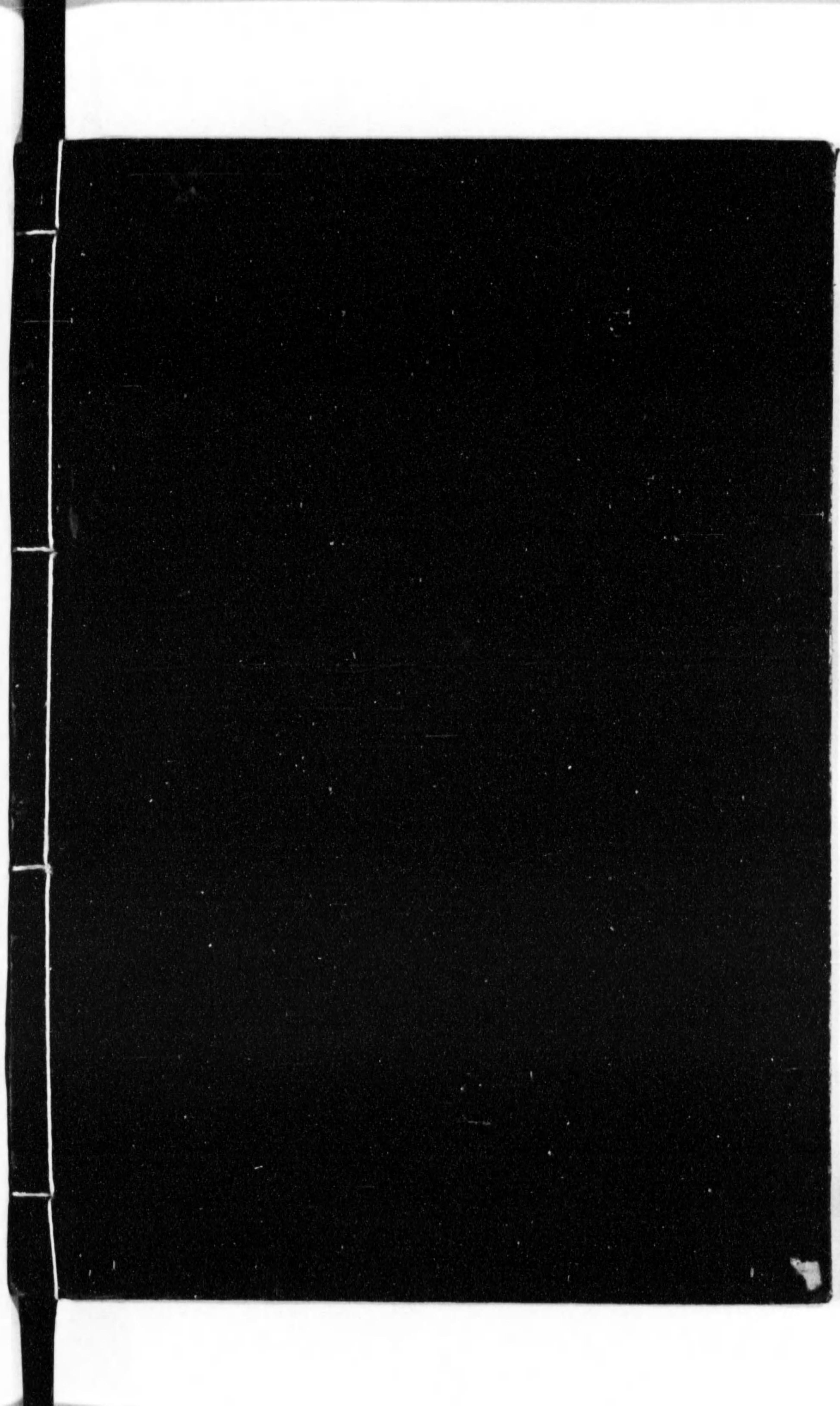
ニモ不及、サテハ此夷輩ノ贊辭ハ、只是懸羊頭、售

166
2
194

寒霞語卷上

狗肉^ヲモノナリ、

寒霞語卷上



寒更霰語

上

166
2
194

020351-001-1

166-194

寒更霰語

超然(深慨隱士)/著

和1冊(上23)

M1

ABI-0157

